第３号（平成 29 年８月１日）

登別市史編さんだより

登別市総務部市史編さんグループ
担当　千葉・更科・玉田・小坂
〒059-8701
登別市中央町６丁目１１番地
Tel 0143-50-6039
Fax 0143-85-1108

新しい市史への思い

登別市史編さん委員会委員長　街道　重昭

今年は、「北海道」の名前を考案した松浦武四郎の生誕２００年にあたります。

昨年、仲間と彼の出身地・三重県松阪市にある「松浦武四郎記念館」を訪ねる機会があり、そこに展示している「野帳」に記録された各地の様子の詳細さに感服し、７０才で富士山登頂を果たした旺盛な冒険心に驚きを新たにしました。

武四郎は、幼少時より生家の前を通る「伊勢参り」の人々をいつもながめていたのでしょう。身長１４８cm と当時でも小柄な彼は、「唐（中国）や天竺（インド）にも行くかもしれません」の手紙を残して１６才で家を飛び出し、その後、蝦夷地探査の途中で登別温泉など登別にも何度か足を運んでいます。記念館では、生涯を心豊かに闊歩し続け、「在地人の目」と「旅人の目」の複眼的視点を養い続けてきた実像が垣間見えました。

『新登別市史』は、市制施行５０周年であって、オリンピック・パラリンピック開催の年である２０２０年の発行を予定しています。「登別市のこれまでの歩みを振り返るとともに、市民の明日への指針になるような市史を」と願い、武四郎が持ち続けたような複眼的視点を大切に取り組んでいきます。

年度が改まり、編さん体制の充実が図られました。市役所に足を運んだ際には市史編さん執務室にも足を運びください。みなさんの「こんな話」「あんな写真」をお待ちしています。

〈参考文献〉『松浦武四郎』（松阪市教育委員会）

地域の昔を語る－市民による地域の昔を語る座談会－

市では、地域の歴史をまとめるため、平成２９年度も引き続き各地域で座談会を行っています。今回は４月１４日に鷲別公民館で行った鷲別地区でのお話を紹介します。これにまつわる思い出などがありましたら、ぜひ、市史編さんグループまでお寄せください。

・メヌキ、カレイ、スケトウダラなど多くの種類の魚が水揚げされ、小さいうちから手伝いをさせられていたので、「（漁が休みになるので）次の日が時化ればよいな」と思っていた。（昭和１０年代）
・水揚げした魚は、鷲別から馬車で室蘭の市場まで運んだ。馬車には２人ついて行くのだが、魚を市場でおろした後に幕西近辺で酒を飲むのが楽しみだったようだ。（昭和１０年代）
・鷲別川は、今よりも川幅が広く大きく蛇行していた。夏は鷲別橋から川に飛び込み、冬は凍結した川面でスケート遊びをした。（昭和３０年代）
・鷲別神社下に映画館があり、その後リリー文化幼稚園の近くに移転した。（昭和３０年代）
・若草町や新生町には建物などが何もなく、汽車からは若草町６丁目にあった八丸旅館がはっきりと見えた。（昭和３０年代）

提供いただいた写真などの紹介

●知里真志保の碑

知里真志保の碑（撮影時期不詳　和田泰子氏提供）

登別小学校の校門付近に建つ知里真志保の碑を知っていますか。

この石碑は、登別出身でアイヌ語を専門とする言語学者である知里真志保を顕彰するために市民有志や旧制室蘭中学校（知里真志保の出身校で現・北海道室蘭栄高等学校）の同窓生が協力して登別本町の高台に建立したもので、より多くの市民が訪れやすいようにと平成８年１０月に現在の場所に移設されたものです。

碑文にある「銀のしずく降れ降れまわりに」は、姉・知里幸恵が著した『アイヌ神謡集』の第１話「梟の神が自ら歌った謠」の一節です。知里幸恵は「銀のしずく降る降るまわりに」と訳しています。「降る降る」と「降れ降れ」の違い、ちょっとした違いですが、言語学者であった知里真志保は、神謡の背景にこだわりを持ち“フクロウの神が、心根は良いが運に恵まれず貧しく暮らしている人に恵みを与えるため「銀よ降れ！金よ降れ！」と言いながら舞い踊る”場面だと解釈したために、「降れ降れ」と表現しました。

石碑を守るように立つ樹木が作る木陰で、失われつつあるアイヌ語を後の世に残そうと努力した姉弟に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

顕彰の碑の移設を記念して配布された定規　　（小坂博宣蔵）

●知里真志保（１９０９年～１９６１年）

登別出身。金田一京助の勧めで東京帝国大学に進学した。樺太（現サハリン）の豊原高等女学校に教諭として赴任した際には樺太庁博物館の研究員を兼務し、アイヌの言語や文化の発生についての研究を行った。ライフワークである『分類アイヌ語辞典』人間編、植物編を刊行、昭和２９年に文学博士の学位が授与され、昭和３３年に北海道大学の教授となる。登別市においては、アイヌ語地名研究家の山田秀三と調査を行い「幌別町のアイヌ語地名」「あの世の入口―いわゆる地獄穴について―」などを共著で刊行した。昭和３６年心臓病で死去した。

◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。
お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりのある方はご連絡ください。

（連絡先）登別市総務部市史編さんグループ　千葉・更科・玉田・小坂
電話：0143-50-6039　FAX：0143-85-1108